

バリアフリー日比谷公園プロジェクト

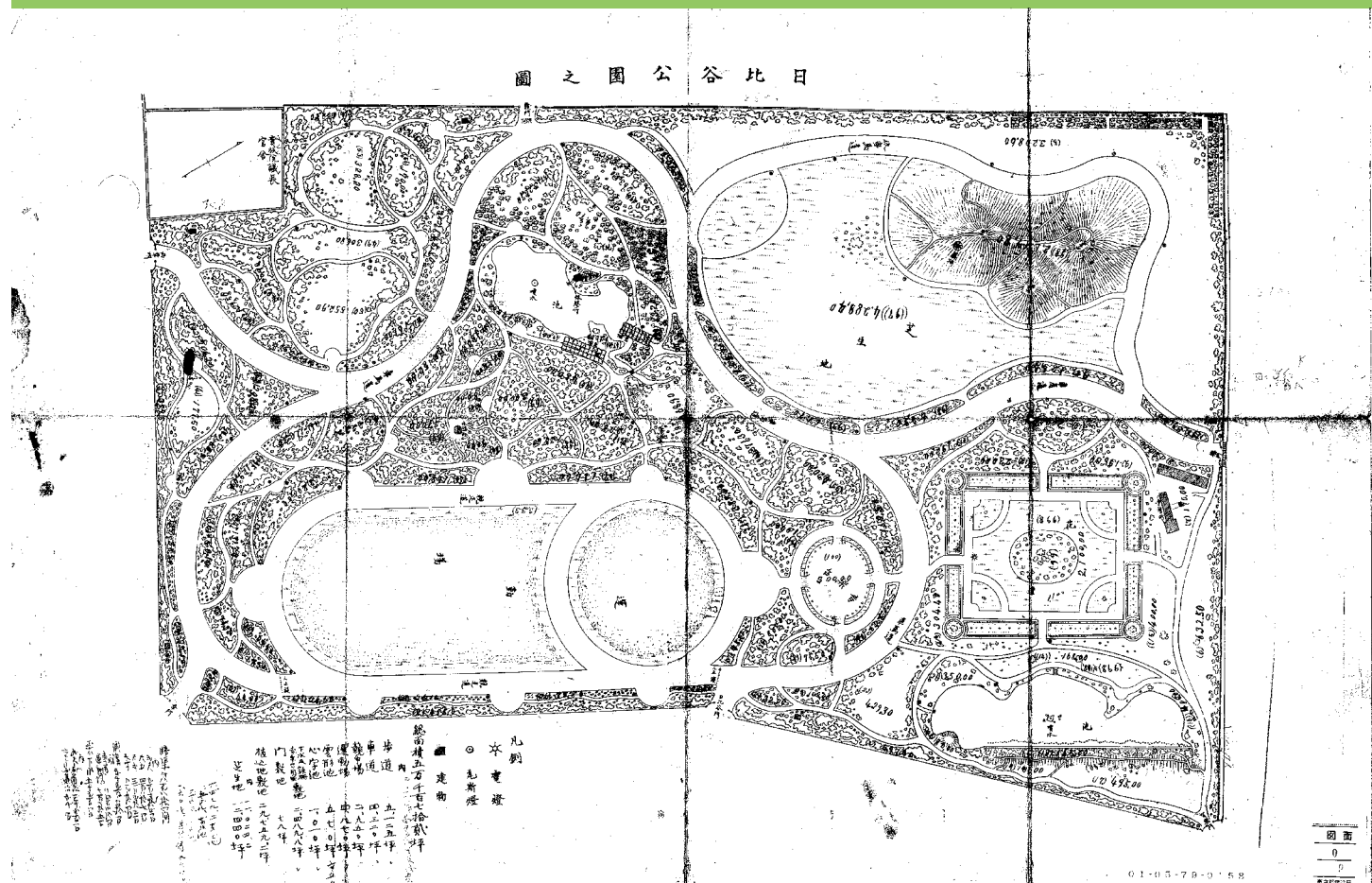
日比谷公園の歴史について

日比谷公園は、日本における近代的洋風公園の先駆けとして明治 36 年（1903 年）に開園した都立公園です。皇居など周辺と一体となった都心の貴重な緑と憩いの場として、長きにわたって都民に親しまれてきました。

日比谷公園の歴史

近代化		震災・戦争	復興→高度成長	安定成長→低成長	新しいステージ
明治 1868-1912	大正 1912-1926		昭和 1926-1989	平成 1989-2019	令和 2019-
●開園 1903 年 (M36)	震災 1923 年	終戦 1945 年	東京五輪 1964 年		東京五輪 2021 年 開園 130 周年 2033 年
我が国の近代的洋風公園の先駆け [✓ 心字池、第一花壇、S 字型園路、雲形池、✓ 運動場、大草地広場 ✓ 飲食店] ✓ 図書館 (M39)	✓ テニスコート 3 面 (T9) → 5 面 (S19) ✓ 児童遊園 (T9) ✓ 大音楽堂 (T12) ✓ 日比谷公会堂 (S4) ・震災時 [集団仮設住居] ・戦時中 [高射砲陣地、菜園 (→児童遊園縮小)] ・戦後は進駐軍が接収		・公園地下に都市計画駐車場 (S33) ・運動場→大噴水・第二花壇など (S36) : 政治集会や多様な催事の場としての利用 ✓ 健康広場 (S36) ✓ 児童遊園廃止→健康広場 拡張 (S57)	✓ 緑の図書館 東京グリーンアーカイブス (H2)	日比谷公園 再生整備
東京のシンボルの公園として先導的な取組 (✓ 文化の発信 ✓ アクティビティの場の提供 ✓ 知のストック) により、人々に親しまれてきた					

開園時 (明治 36 年) の園内図



つつじ山の絵葉書



日比谷松本楼のスケッチ



初代音楽堂の絵葉書



第一花壇 (昭和初期)



「3つの洋（洋食・洋楽・洋花）」

バリアフリーについての考え方

明治 36 年に近代的洋風公園の先駆けとして開園した日比谷公園を、年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、誰もが利用しやすく楽しめる新たな時代の公園に進化させるため、下記の取組を行います。

誰もが利用しやすい公園にします

安心して利用でき、かつ安全に移動できるようにします。

< 例 >

- ・音楽堂等の施設や花壇の段差解消等
- ・車いすの方も楽しめる花壇の設置
- ・こども達と作るユニバーサルデザイン遊具
- ・授乳、おむつ交換、調乳ポット等



< ユニバーサルデザイン遊具 (イメージ) >



< 授乳室 (イメージ) >



< 車いすの方も楽しめる花壇 (イメージ) >

誰もが必要な情報にアクセスしやすい公園にします

窓口での対応や園内案内を安心して受け、コミュニケーションができるようにします。

< 例 >

- ・音声認識システム、タブレット、チャットボット
- ・案内サイン多言語化、やさしい日本語、ピクトグラム
- ・開発された情報ツールの実証の場として活用



< 音声認識システム (イメージ) >



< 「やさしい日本語」 >



< ピクトグラム >

誰もがより楽しんでもらえる公園にします

デジタルを活用し、公園の文化や歴史に触れながら楽しめるようにします。

< 例 >

- ・障害のある人もない人も一緒に楽しめるイベント
- ・来園できない人が ICT 活用で散策体験
- ・QR コード等で開園当時の様子を多言語・画像解説

< QR コード活用 (イメージ) >

※出典：文化庁HP



樹木の取扱いについての考え方

これまで受け継いできた公園の緑を守っていくとともに、将来にわたり上質な緑の空間であり続けるため、下記の考え方により樹木を保全します。

施設の整備工事にあたっては、樹木を保全します

- ・樹木を避けて整備を実施します。
- ・移植が必要となる場合には樹木診断を行った上で公園内で移植します。

※ < 樹木診断とは >

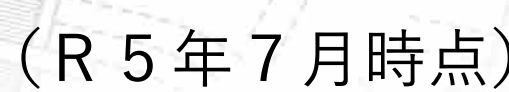
樹木医の有資格者が樹木の健康状態を診断するものであり、この結果を踏まえ移植を行います。

樹木を守るため、適切に保全管理します

- ・樹木の健全な生長、魅力ある風景の創出や安心・安全のための視認性向上により移植が必要な場合は、樹木診断を行った上で移植します。
※公園の緑を良好に維持していくため、引き続き適切に植栽管理を行います。

将来世代とともに日比谷公園の緑を考えます

- ・樹木診断は、親子で参加していただけるよう実施し、公園の緑を身近に感じ、理解や学びを深め、一緒に考えるきっかけとしていきます。
- ・実施後の樹木診断の結果はHP等にて公表します。





※上記はイメージであり、今後の検討、協議等により変更となる可能性があります。(R 5 年 7 月時点)

プロジェクトの進め方

日比谷公園開園 130 周年となる 2033 年(令和 15 年)を目標に本公園全体の整備に取り組んでいきます。整備は、概ね下記の①から⑨の順でエリア毎に段階的に進めていきます。



※令和 5 年 7 月時点の日比谷公園の平面図にエリアを表示
赤枠は日比谷公園の都市計画区域



(R 5 年 7 月時点)

スケジュール

エリア 工事主体		令和 5 年度 2023年度	令和 6 年度 2024年度	令和 7 年度 2025年度	令和 8 年度 2026年度	令和 9 年度以降 2027年度以降
①第二花壇 (現 芝庭広場) 周辺	都	再整備工事				
②大噴水・ 小音楽堂周辺	都		再整備工事			
③大音楽堂 (野音)	都			再整備工事		R 11年度
④有楽町側デッキ (道路上空公園)	民間			整備工事		R 9 年度末
⑤公会堂	都				耐震化・改修工事	
⑥第一花壇・ 心字池周辺	都				一部改修工事	
⑦内幸町側デッキ (道路上空公園)	民間					R 9 年度末 整備工事
⑧草地広場・ テニスコート等	都					R 11年度末 再整備工事
⑨雲形池周辺	都					R 13年度末 一部改修工事
園路整備等	都					R 13年度末 改修工事

※ 上記スケジュールは現時点における予定であり、変更の可能性があります。※ 各エリアごとの整備内容がまとまり次第、整備に関する情報を発信するためオープンハウス等を開催します。

1 第二花壇（現 芝庭広場）

工事主体：都 | 令和 6 年 9 月供用開始

整備内容

- ・来園者が芝生に自由に立ち入ることができる芝庭広場に整備しました。
- ・イベント時等でも車椅子やベビーカーの方が、安心・安全に通れるよう園路を拡幅しました。



将来イメージ図



第二花壇（現 芝庭広場）の今昔物語 ～明治から未来へ～

《過去》



＜伊藤博文の国葬（明治 42 年）＞
（公財）東京都公園協会所蔵

- ・開園時は運動場（大広場）でした。伊藤博文ら要人の国葬など、国家的行事も頻繁に行われました。

《現在》



- ・公園内で最も大きなオープンスペースです。関東大震災、東日本大震災時には、防災拠点としての機能も発揮しました。



- ・誰もが楽しみ、憩えるオープンスペースとなるよう、自由に芝生に入ることができるようにしました。

～将来の芝庭広場で出来ること～

- 例えば、
- ・芝生でピクニック
- ・机・椅子を置いてテレワークなど



3 大音楽堂（野音）

工事主体：都 | 令和 7 年度工事着手

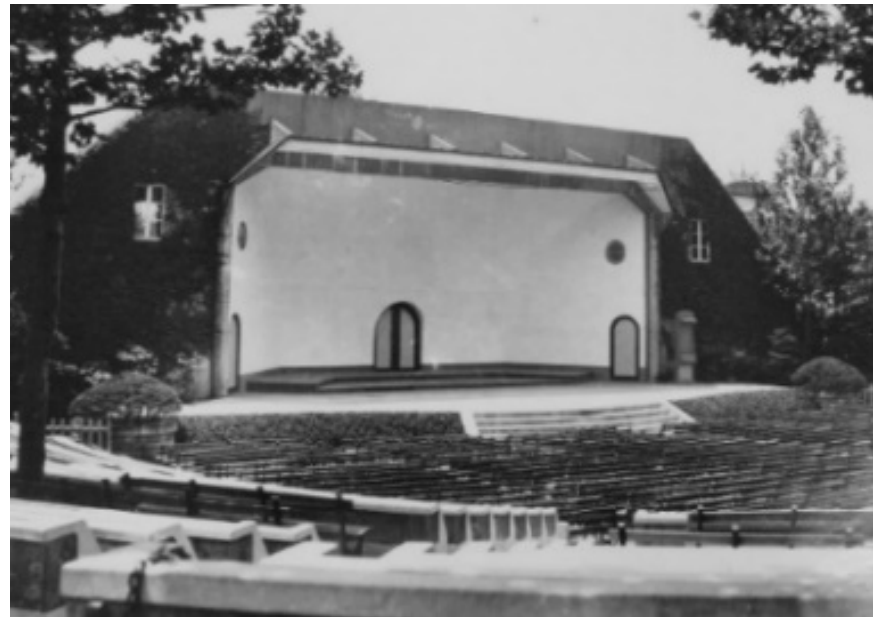
整備内容

- ・大音楽堂を改築するとともに、大音楽堂の周辺を一体的に再整備します。
- ・大音楽堂は野外音楽堂ならではの開放感を維持することを前提に、雨天でも対応できるようにステージ上及び観客席前方に屋根を設置します。
- ・控室やバックヤードなどの機能拡充を図ります。
- ・再整備後も、「公園の豊かな緑に囲まれた野音」を継承していきます。



大音楽堂の今昔物語 ～大正から未来へ～

《過去》



＜初代野音：1923 年（大正 12 年）竣工＞



＜二代目野音：1954 年（昭和 29 年）竣工＞

《現在》



＜三代目野音：1983 年（昭和 58 年）竣工＞

- ・1923 年（大正 12 年）に日本最初の大規模野外音楽堂として完成しました。音楽鑑賞に加え、ボクシング大会が開催されるなど、多様な活用をされていました。
- ・二代目野音以降、ブルースバンドをはじめ、ロック、ジャズ、フォークの音楽会場として盛んに利用されてきました。
- ・都心の中にありながら緑に囲まれた野外音楽堂で、これまで著名なミュージシャンのコンサートが多く開かれました。「音楽の聖地」「ロックの聖地」「フォークの殿堂」と呼ばれています。

～将来の大音楽堂（野音）とその周辺で出来ること～

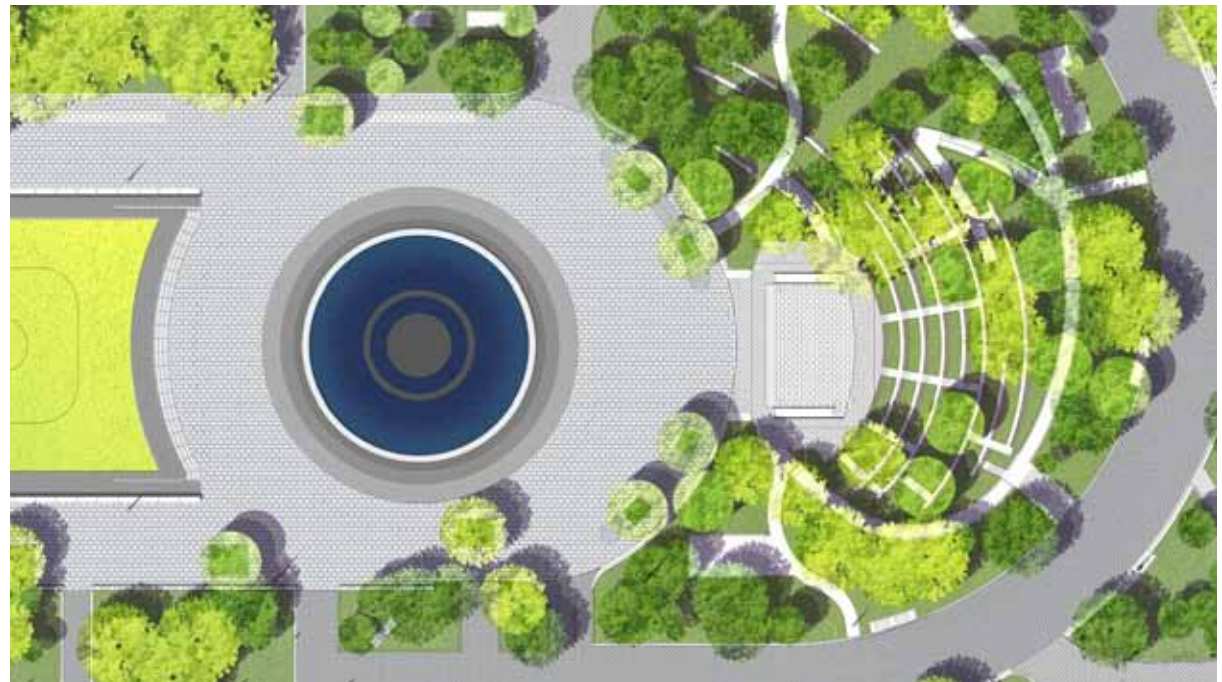
- 例えば、
- ・車椅子利用者等も安心して楽しめる
- ・誰もが音楽を楽しめるよう機能を充実

2 大噴水・小音楽堂

工事主体：都 | 令和 6 年度工事着手

整備内容

- ・大噴水は現在の形状を継承し再整備します。
- ・小音楽堂はステージや観覧席の高さを下げて段差や柵をなくし、噴水広場と一体的な広場として再整備します。



大噴水・小音楽堂の今昔物語 ～明治から未来へ～

《過去》



＜開園時の小音楽堂＞
（公財）東京都公園協会所蔵

- ・わが国初の野外音楽堂として作られました。西洋風のバンド・ステージであり、日本における西洋音楽の普及に貢献しました。
- ・大噴水は、昭和 36 年（1961）に整備されました。

《現在》



- ・現在の 3 代目小音楽堂では、警視庁と消防庁の音楽隊が多くのファンを魅了しています。
- ・大噴水は公園のシンボルとして人気のスポットです。

《将来》



- ・噴水広場と小音楽堂を一体的な空間にして、様々な使い方ができるようにします。貸切時以外は一般にも開放します。

～将来の小音楽堂で出来ること～

- 例えば、
- ・噴水広場・小音楽堂一体の文化イベント
- ・ビスタ景観を眺めながら小音楽堂でランチ、休憩など

4&7 デッキ

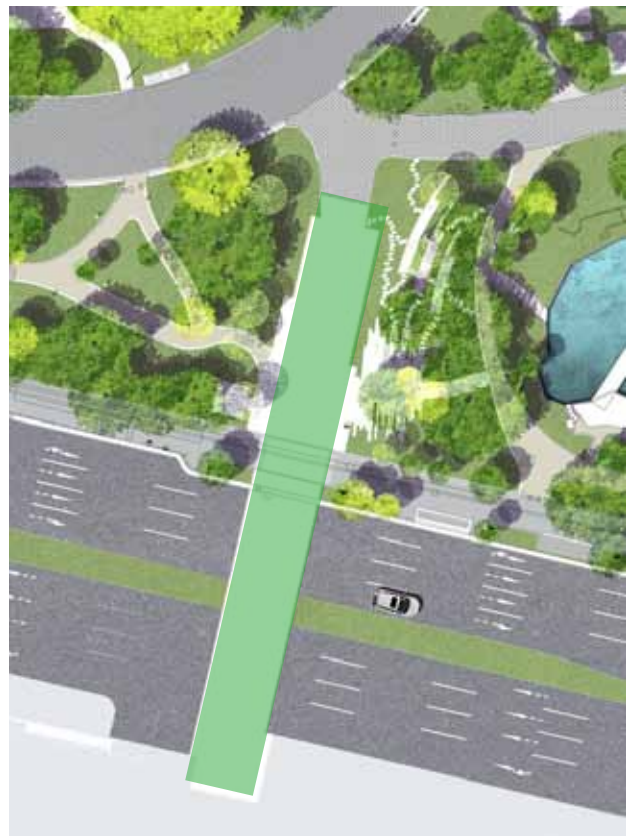
工事主体：民間 |

令和 7 年度工事着工（有楽町側デッキ）

令和 9 年度工事着工（内幸町側デッキ）

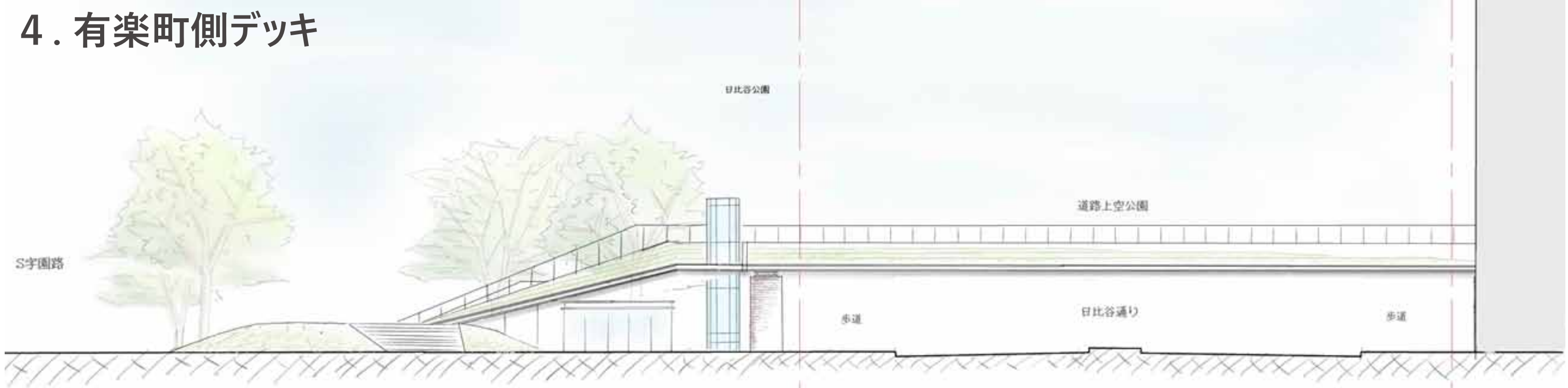
整備内容

- ・公園とまちをつなぐデッキを 2 箇所整備します。
- ・柵を無くし歩道と一体化するなどの外周部の改修等により、公園と周辺のまちとのアクセシビリティ向上を図ります。
- ・デッキにはエレベーターを設置し、車椅子の方や体の不自由な方も安全、快適に公園を訪れることができるようにするとともに、デッキ自体も緑化し内幸町一丁目街区開発事業エリアの緑とつなげます。

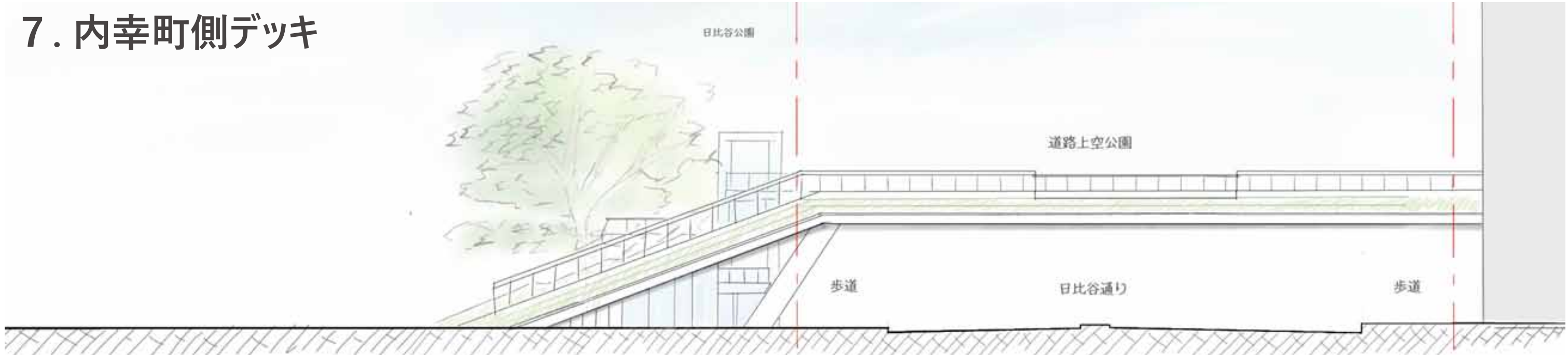


デッキの将来イメージ

4. 有楽町側デッキ



7. 内幸町側デッキ



～将来のデッキとその周辺で出来ること～

- 例えば、
- ・デッキ（道路上空公園）からの眺望を楽しむ
- ・イベントなどを実施し賑わいの場を創出
- ・緑を感じながら休憩やテレワーク

整備内容

- ・耐震化工事と併せ、楽屋、リハーサル室の機能拡充やエレベータの設置などバリアフリー化のための改修を実施します。
- ・公会堂の魅力や歴史を知ってもらうとともに、憩いの場となるよう、アーカイブカフェを設置します。
- ・誰もが気軽に公演を楽しめるよう、音声ガイドや字幕機等を活用できる施設にします。



公会堂の今昔物語 ～明治から未来へ～

《過去》



< 公会堂：1929 年（昭和 4 年）竣工 >

《現在》



・長さに渡り、コンサートや演劇の舞台として都民に親まれ、政治集会、演説会の会場としても多用されました。

・歴史的・文化的価値が評価され、令和 5 年 3 月に東京都の指定文化財となりました（現在は使用を休止しています）。

～将来の公会堂で出来ること～

- 例えば、
- ・アーカイブカフェで文化を辿る
- ・誰もが公演を楽しめるよう機能を充実



< 音声によるガイド（イメージ） >

整備内容

- ・多種多様な広場が集まり、様々な世代の憩いの場となる空間に再整備します。
- ・テニスコートはテニス以外も楽しめる球技広場として再整備し、三笠山は一部改修して残します。
- ・サービスセンター、陳列場等を集約し、複合機能施設としてパークプラザ（仮称）を設置し、音声認識システム等による窓口対応や、授乳・おむつ交換、雨天でも遊べる場所を提供します。



草地広場・テニスコート等周辺の今昔物語

～明治から未来へ～

《過去》

< 開園当時の三笠山 >
(公財) 東京都公園協会所蔵< 昭和 8 年のテニスコート >
(公財) 東京都公園協会所蔵

《現在》



< 現在の三笠山 >



< 現在のテニスコート >

《将来》

将来は、多種多様な広場に整備します。様々なプログラム等によって、訪れるたびに新たな体験を提供します。

将来イメージ図



- ・三笠山は、公園造成時に池などを掘った土を盛った小山であり、当時は 3 つの笠をふせたような形をしていました。
- ・三笠山の一部を削り、大正 9 年に東京の公園で初めてのテニスコートが完成しました。

- ・現在の三笠山には、祝田門に近い北側の 2 つの築山が残されています。
- ・テニスコートは完成当初の 3 面から 5 面に増えました。

～将来の草地広場・テニスコート等周辺で出来ること～

- 例えば、
- ・球技広場でテニスや他の球技を楽しむ
- ・公園ならではのプログラムを楽しみつつ、多様な広場で思い思いに過ごす。

整備内容

- ・現在の花壇を継承しつつ、四季折々の花を充実させ、花の魅力を発信し続けます。
- ・車いすの方も楽しめる花壇を新設して、誰もが楽しめる魅力ある施設にします。
- ・開園当初の姿を留める心字池の護岸などを修復し、江戸城の石垣を活かした風格ある景観を再生し、歴史の魅力を発信していきます。



第一花壇・心字池の今昔物語 ～明治から未来へ～

《過去》



< 昭和初期の第一花壇 >



< 開園時の心字池 >

《現在》



< 現在の第一花壇 >



< 現在の心字池 >

《将来》

将来イメージ図



- ・第一花壇は、初めて見る洋花が多く植えられました。
- ・心字池はかつて江戸城の濠でした。

- ・心字池は、上から見ると「心」の字をくずした形の池です。
- ・第一花壇の広さや植栽スタイルは、開園時からほとんど変わっていません。

- ・第一花壇については、誰もが四季の魅力を感じることができる場にします。心字池は、修復等を行い、江戸の歴史を感じられる場にします。

～将来の第一花壇・心字池で出来ること～

- 例えば、
- ・車いすで花壇を楽しむ
- ・江戸城の石垣で歴史を感じる

整備内容

- ・雲形池の護岸や園路の玉石縁石を修復するなどし、歴史的な景観を再現します。
- ・開園当初から残るつつじ山が、多くの人々を魅了した本来の姿を取り戻すよう、高木を剪定し日照を確保するなど、再生していきます。また、段差の解消やスロープの設置により誰もが楽しめるようにします。



《過去》

< かつてのつつじ山 >
(公財) 東京都公園協会所蔵< 明治期の雲形池 >
(公財) 東京都公園協会所蔵

《現在》



< 現在のつつじ山 >



< 現在の雲形池 >

《将来》

- ・開園当初の姿を留める雲形池は修復し維持していきます。
- ・つつじ山に残る貴重種も活かして再生を図ります。
- ・林床テラスを設置し、自然を感じながら読書など、休息ができる空間を創出します。

～将来の雲形池周辺で出来ること～

- 例えば、
- ・かつての姿に再生したつつじ山を楽しむ
- ・歴史を感じながら周辺を散策

将来イメージ図

